

# 便潜血反応検査の結果と 大腸癌のハイリスク群について

～追跡調査結果  
からの検証～

# 医療法人城見会 アムスランドマーククリニック

○ 齋藤 綾子                      小澤 靖  
    笹川 晃                         石井 由美子  
    松井 理恵子                    立木 成之

# 目的

- 大腸癌は増加傾向であり、早期発見には便潜血反応検査が有効であるが、精査につなげるアプローチもまた重要であると考える。

今回、人間ドックを受診し、大腸癌と診断がなされた者の過去の結果を比較検討し、大腸癌のハイリスク群の抽出と、検査精度の検証及び精査実施率向上にむけ効果的なアプローチが出来ないかを検討する。

## 【方法】

大腸癌が判明した時点から遡り、過去2回分の便潜血反応検査の結果を抽出、精査実施に至るまでの間の検査結果を比較検討した。

## 【対象】

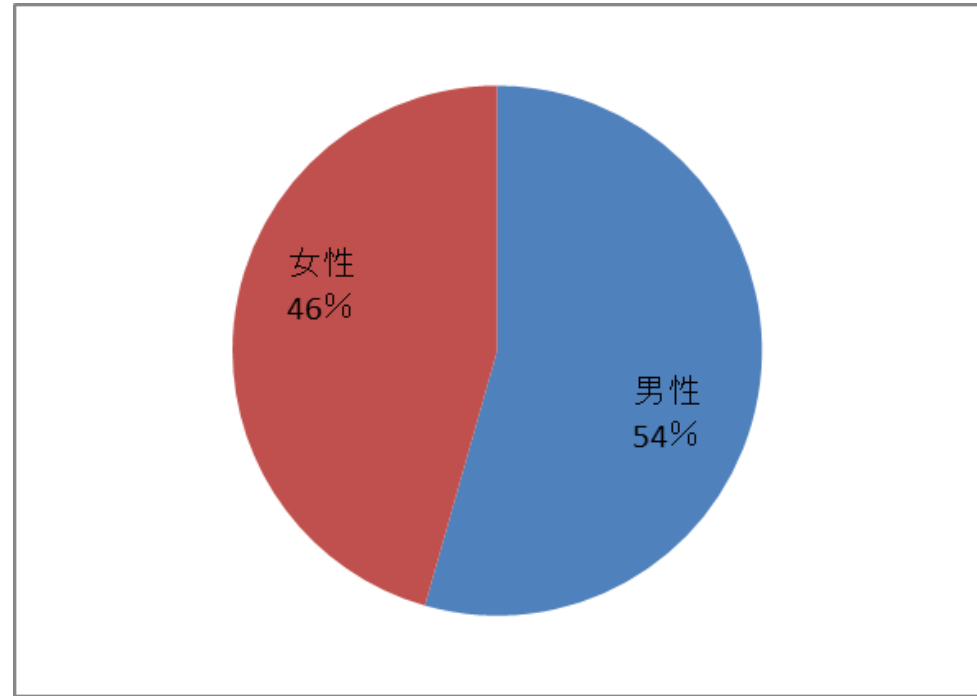
2007年～2011年の5年間に便潜血陽性で精査指示のあった2865人のうち、追跡調査で大腸癌と確定診断のあった68人。

- ・測定装置：ALOKA・OCセンサーDIANA・OC-280  
栄研化学 OC-ヘモディア・オートⅢ  
(カットオフ値：130ng/ml)

# 受診者数と男女比

【2007～2011】

人間ドック受診者数					
	男	女	総数	継続受診者	リピーター率
2011	Webでは非公開				
2010					
2009					
2008					
2007					
全体					



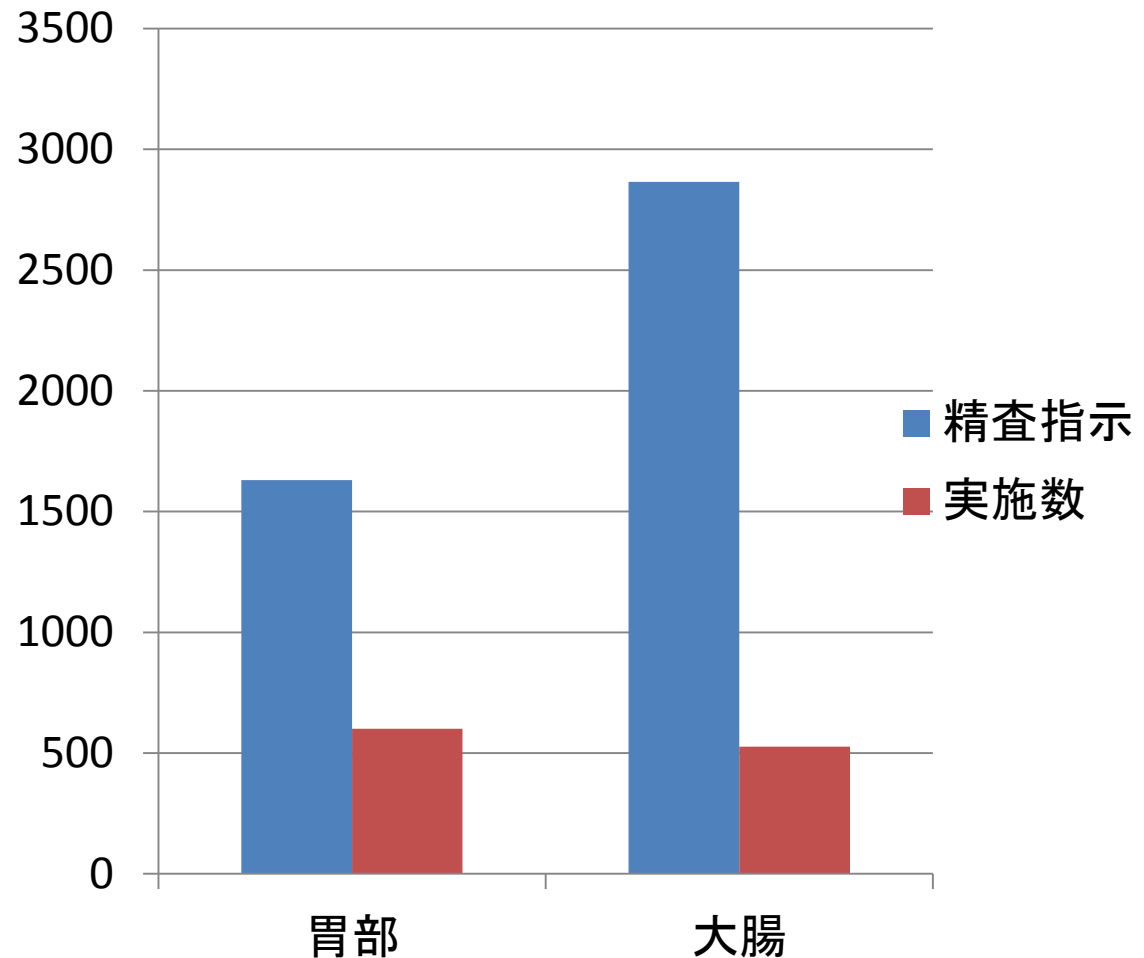
- 男女比は54:46

# 精査指示数と実施数の比較

(上部と下部の比較)

追跡調査で  
判った精査実  
施状況は

精査実施率  
胃部36.9%  
大腸18.4%



# 検査を受けなかった理由

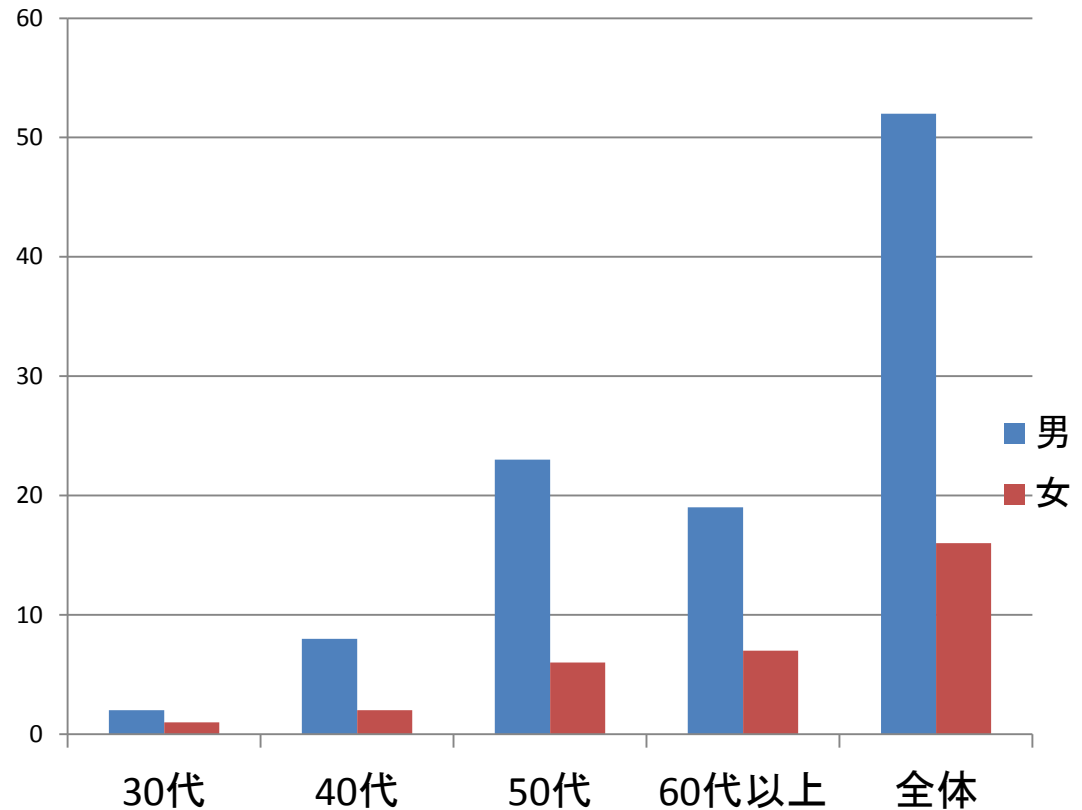
- 時間が取れなかった
- 以前も同じ結果で検査したことがあるが異常がなかった
- 痔のせいだと思っている
- 忘れていた/時間が経ってしまった
- 検査が大変そう/検査が怖い
- 重要だと思わなかった

# 大腸癌の男女の割合

男女とも年齢が上がるほど大腸癌の数は増えるが、男性は女性の3倍以上である。

特に50代以上で大きな差がみられる。

受診者数は40代が多いが大腸癌は50代以上が多い



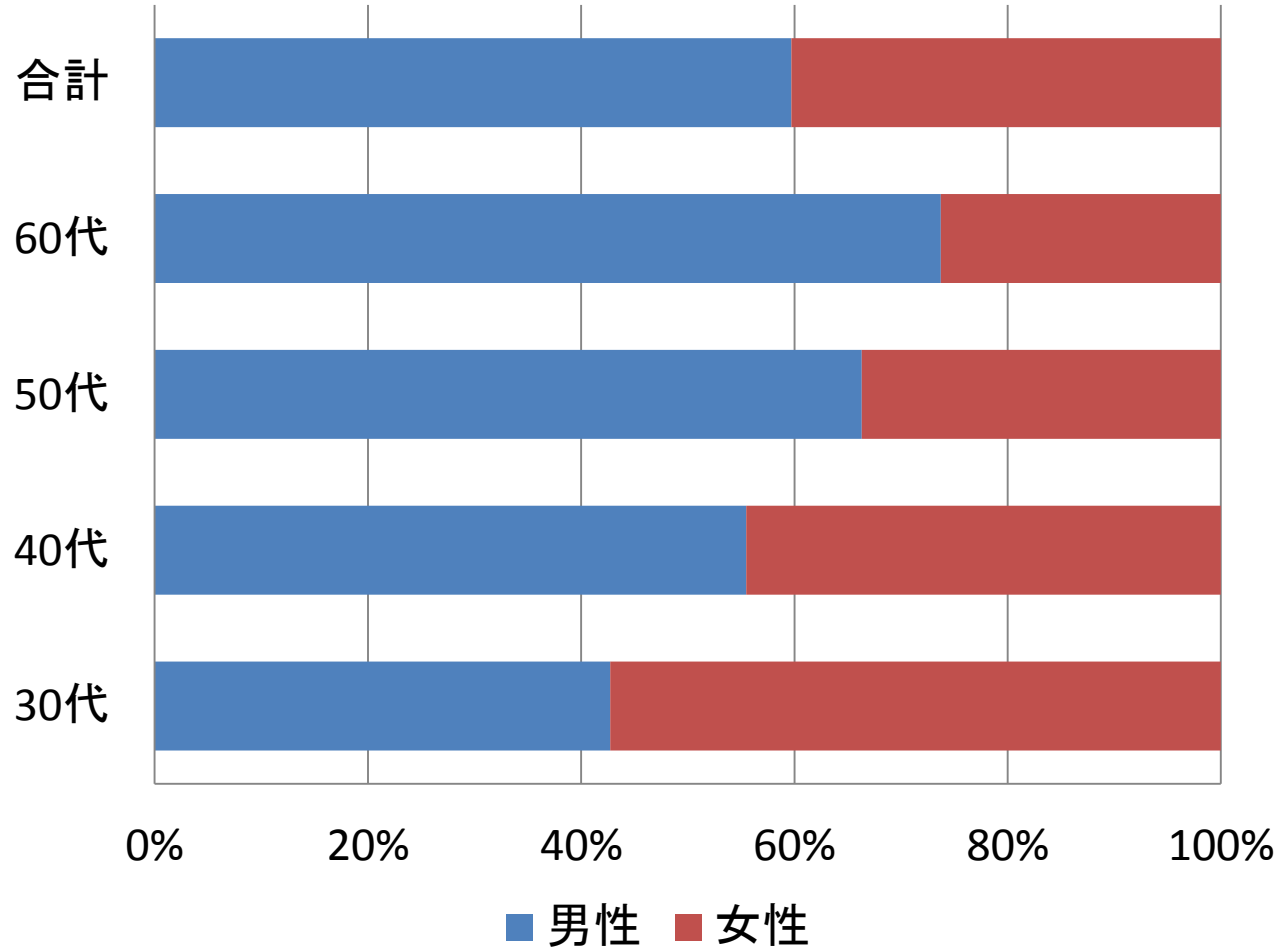
	30代	40代	50代	60代以上	全体
男	2	8	23	19	52
女	1	2	6	7	16



## 年代毎の精査指示の男女比

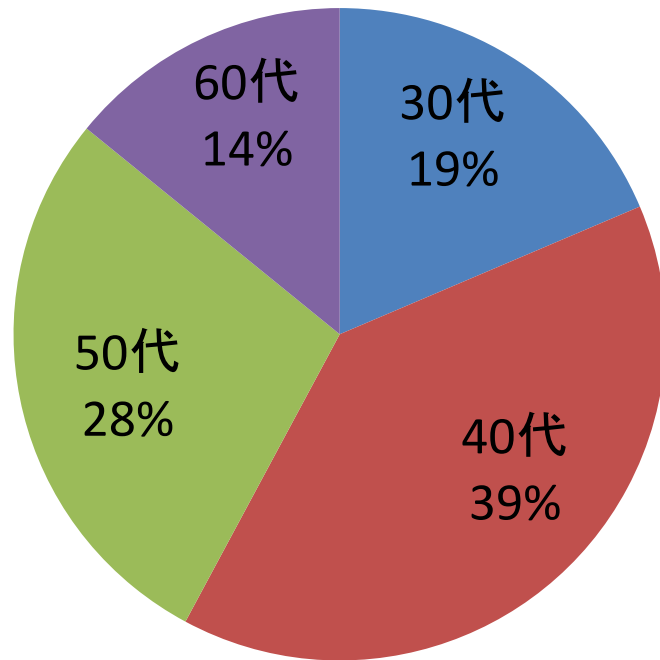
・精査指示(便潜血陽性)の60%は男性であり、年齢が上がるほど増加傾向がある。

・60代で精査指示がある者の75%は男性である

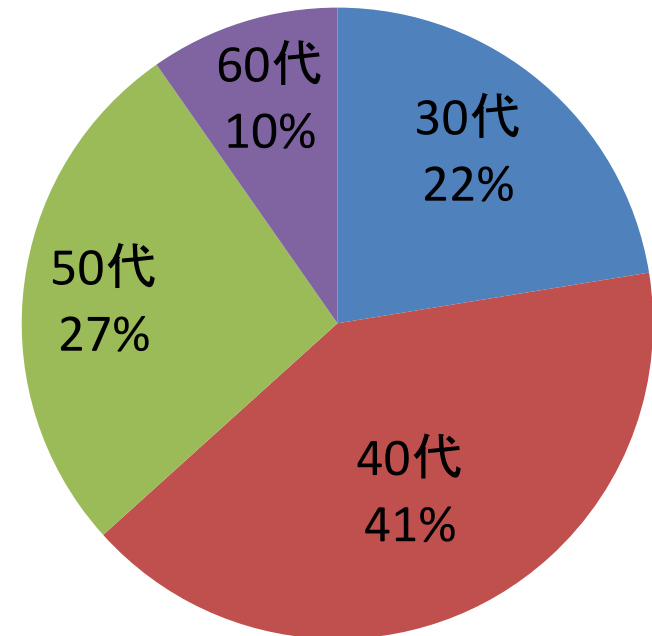


# 受診者の年齢構成

男性

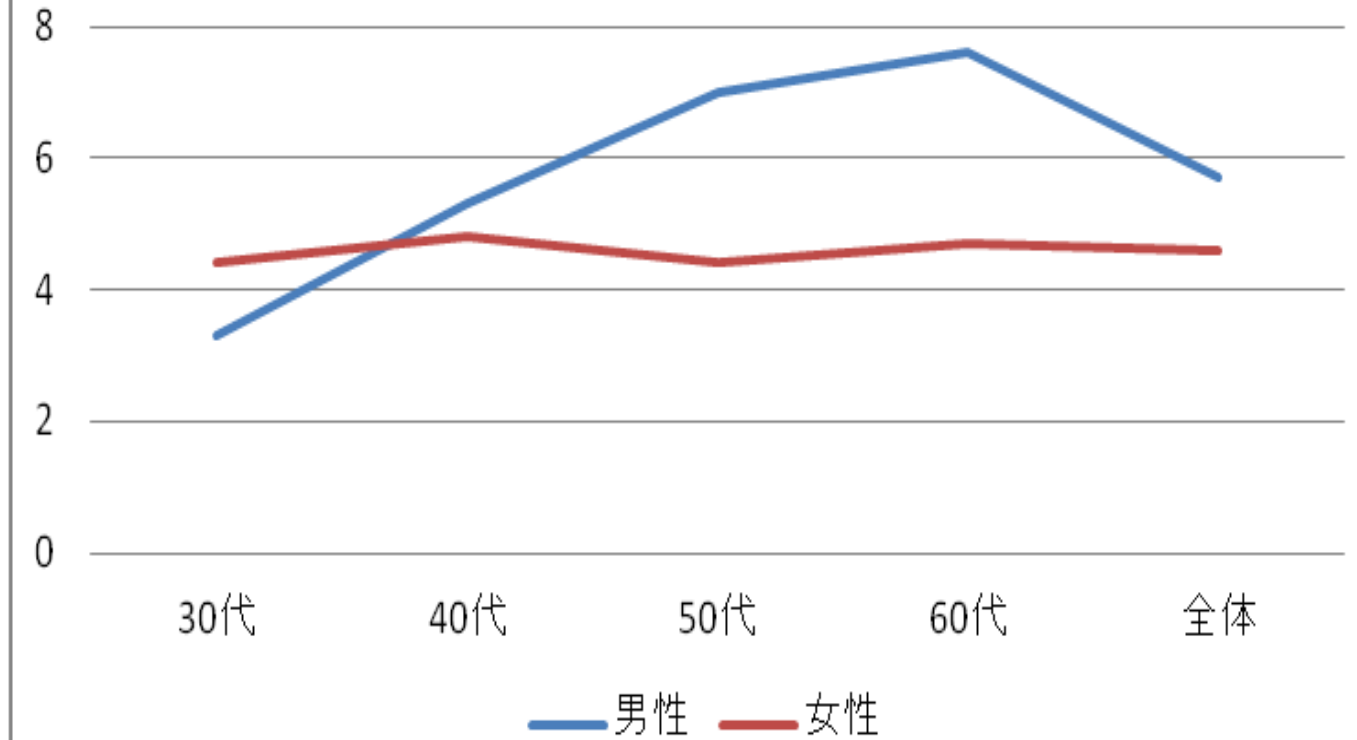


女性



男女とも40代の受診者が多い

## 年代別精査指示の割合 (便潜血反応検査)



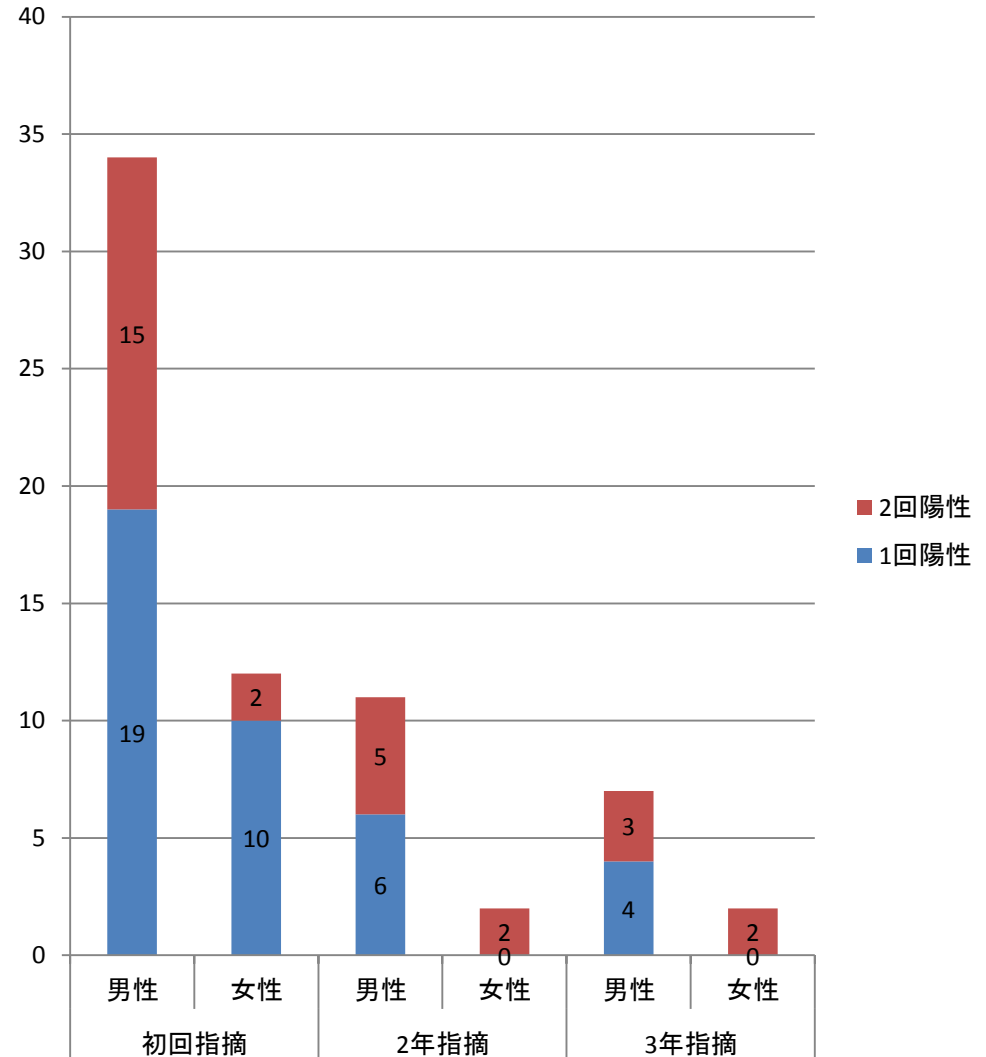
女性は各年代でほぼ一定の割合であるが男性は年齢とともに増加傾向が見られる

	30代	40代	50代	60代	全体
男性	3.3	5.3	7.0	7.6	5.7
女性	4.4	4.8	4.4	4.7	4.6

# 陽性回数と陽性指摘年数

- ・全体の約7割が初めて陽性反応が出た時点で精査を受け、大腸癌を指摘されている。
- ・2回法で1回の陽性反応でも大腸癌の指摘がされている。

		1回陽性	2回陽性
初回指摘	男性	19	15
	女性	10	2
2年指摘	男性	6	5
	女性	0	2
3年指摘	男性	4	3
	女性	0	2



# まとめ

- 便潜血反応検査はスクリーニングとして有効であり、1回でも陽性反応がでた場合は精査を勧める必要がある。しかし、精査の負担が大きいことに加え、他の検査に比べ、受診者の意識付けが弱く、精査実施につながりにくい面があることが分かった。
- 50歳以上の男性については大腸癌のハイリスク群であり、特に注意が必要である。
- 精査の実施率を上げ、大腸癌の早期発見につなげるためには、検査結果判明後なるべく早い段階で、ハイリスク群である事を直接説明し、精査の受診勧奨を行うことが大切である。

# 日本人間ドック学会 COI開示

筆頭発表者名： 齋藤 綾子

演題発表に関連し、開示すべきCOI  
関係にある企業などはありません。